

＜ もくじ ＞	
1. 本年度「連続講座」第2回および第3回の概要と受付のお知らせ	1～2
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 各研究会の概要報告	3～4
4. 第5回シンポジウム「あれから8年～わたしたちはフクシマを忘れない～ 二点居住という生活のかたち」開催のお知らせ	5～6
5. 当学会後援国際シンポジウムのお知らせ	6

1. 本年度「連続講座」第2回および第3回の概要と受付のお知らせ

連続講座テーマ：「持続可能な超高齢社会 ～安心の未来に向けて～」(計3回)

2018年度連続講座第2回および第3回の開催概要をお知らせいたします。
お申し込み受付中です。ぜひお気軽にご参加ください。

◆第2回講座は2018年10月20日(土)開催です。

講演者：笹谷秀光(株式会社伊藤園顧問)

東京大学法学部卒。農水省、環境省他の行政職を歴任。伊藤園入社、取締役等を経て現職。日本経営倫理学会理事。グローバルビジネス学会理事。



テーマ：持続可能な社会～Sustainable Development Goalsの実現に向けて

(講演要旨)

いま持続可能な社会づくりが求められ、その焦点は地域社会にある。共有価値の創造(CSV)や国際基準の企業の社会的責任(CSR)を経営に組み込んだ伊藤園での経験も踏まえ、「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals」に向けた企業や研究者の連携手法を探る。

- 1) 日 時：2018年10月20日(土) 14:00～16:00
- 2) 会 場：駒澤大学 駒沢キャンパス 本部棟 6階中会議室
- 3) 参加費：1,000円(会場にてお支払いください)
- 4) 主 催：一般社団法人シニア社会学会

◆第3回講座は2018年12月1日(土)開催です。

講演者：竹信恵美子(和光大学教授)

東京大学文学部卒。元朝日新聞記者。貧困ジャーナリズム大賞受賞。『ルポ雇用劣化不況』で労働ペンクラブ賞受賞。



テーマ：「働き方改革」で日本は幸せな社会になれるか

(講演要旨)

「働き方改革一括関連法案」が成立した。「一億総活躍」政策で、高齢者も「生涯現役」として期待されつつあり、「働き方」のルールと無縁ではない。今回の「改革」は、そんな高齢者も含めた持続可能な働き方にプラスになるのか。その問題点を点検し、年齢や性別にかかわらず幸せに働けるための本当の改革を展望する。

- 1) 日 時： 2018年12月1日(土) 14:00~16:00
- 2) 会 場： 駒澤大学 駒沢キャンパス 本部棟 6階中会議室
- 3) 参加費： 1,000円 (会場にてお支払いください)
- 4) 主 催： 一般社団法人シニア社会学会

※ オープン講座ですので、会員以外の方の参加も歓迎いたします。

※ 第3回の詳細については、別添チラシをご参照ください。

※ お問い合わせ、受講お申し込みはメール、FAX または電話で事務局までお願いします。

電話&FAX: 03-5778-4728 eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第27回「シニアのICT活用研究会」開催のお知らせ

- 1) 日 時： 2018年10月19日(金) 14:00~16:00
- 2) 場 所： (公財)ダイヤ高齢社会研究財団会議室
新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA 新宿御苑 3階
<http://dia.or.jp/access>
- 3) 話題提起者： 木戸 裕 (NPO 法人サイバーシニアーズ・ジャパン代表)
- 4) テーマ： 「シニアにとってのセキュリティとITリテラシー」
- 5) 参加費： 500円

※ 参加のご連絡は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。
なお、11月はお休みです。

(2) 第113回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時： 2018年10月24日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者： 小島克久 (国立社会保障・人口問題研究所情報調査分析部長)
- 3) テーマ： 「東アジアの介護制度の動向と福祉用具の活用(仮)」
- 4) 会 場： 日本労働者協同組合連合会 会議室
豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ ご質問がございましたら、阿部(佐藤)まで。

090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

(3) 第59回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時： 2018年10月25日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所： 早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ： “自分にとっての「サードプレイス」について” の発表と討議
出席者は、テーマについてA4版1枚程度にまとめていただき、当日発表と討議を行ないます。
- 4) 参加費： 300円

※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)迄お願い致します。

(4) 第6回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時： 2018年10月26日(金) 18:00~21:00
- 2) 場 所： 内幸町 日本プレスセンター内、日本記者クラブ 9階 ラウンジ
- 3) テーマ： 「人生、思い出の〇〇〇」 〇の中には、自分を変える程のインパクトがあった料理、酒、食物、名店等々、ジャンルは問わないが一つだけ記入!
- 4) 参加費： 500円

※ お問い合わせは中村(nakamura@jass.jp)までお願いいたします。

3. 各研究会の概要報告

(1) 第26回「シニアのICT研究会」の報告

1) 日 時： 2018年9月21日(金) 14:00~16:00

2) 場 所： ダイヤ高齢社会研究財団 会議室

3) 報告者： 澤岡 詩野(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員、当会理事)

4) テーマ： 「高齢者が最後までネットを使い続けることの利点と求められる支援」

総務省が進めている『スマートインクルージョン構想』(ICTを利活用し(スマート)、誰もが多様な価値観やライフスタイルを持ちつつ、みんなで支え合いながら、豊かな人生を享受できる「インクルーシブ(包摂)」な社会の実現)について情報提供とディスカッションを行った。

構想の中で「地域ICTクラブ」を、プログラミング等のICTに関して世代を超えて知識・経験を共有する仕組みとして整備が考えられている。そこでは、ヒト(メンター)モノ(教材、会場)、カネ(活動資金)を地域コーディネーターが組み合わせて活動を支援する。

また、高齢者等が住居から地理的に近い場所で心理的に身近な人からICTを学べる環境を整備するために「ICT活用推進委員(仮称)」が検討されている。

ディスカッションでは、「ICT活用推進委員(仮称)」として期待されているシニア情報生活アドバイザーや老人クラブメンバーは、次年度行われるであろうモデル事業を注視したいと述べていた。また、「ICT活用推進委員(仮称)」としては、人と人をつなぐコーディネーター的役割と“ICTに強いこと”が求められるだろうが、両方を兼ね備えた人材を求めるのではなく、複数人が分担してその役割を果たすことが現実的であろうとされた。(森記)

(2) 第5回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時： 2018年9月22日(金) 18:00~21:00

2) 場 所： 内幸町 日本プレスセンター内 日本記者クラブ 9階ラウンジ

3) テーマ： 「人生で影響を受けた一作は、何か？」

研究会メンバーが最も影響を受けた書籍について、各人がその理由を記述したペーパーを提出したが、内容について深く議論するには時間が不足、せっかくご参加下さった袖井孝子会長も「これじゃ、読書会。じっくりとしたナマの議論があれば良かったですね」と辛口のコментарでした。袖井会長、ありがとうございました。

ここでは、参加者名とその方々の「一作」を記載することとめます。この回の詳細も「ライフプロデュース」研究会のブログをご覧ください。

(敬称略)

①庄司信明=『辰野和男の天声人語 人物編』(辰野和男著、朝日文庫)

②若井泰樹=『話を聞かない男、地図を読めない女』(アラン・ビーズ/バーバラ・ビーズ夫妻共著)(藤井留美訳、主婦の友社)

③中村昌子=『名画を見る眼』『続・名画を見る眼』(高階秀爾著、岩波新書)

④小平陽一=10回ほど引越したが、捨てずに持ち続けていたE・フラムの『自由からの脱走』『愛するということ』『悪について』などを読み漁った。若い時に悩んでいる時、瀬戸内寂聴のエッセイに救われ、今ハマっているのが勢古浩爾の『定年バカ』。

⑤三橋建一=『3人の訪問者』(藤村随筆集、『飯倉だより』所載)

⑥寺本眞子=『道は開ける』(D・カーネギー著)

⑦小川文男=『脳と創造性、「この私」というクオリアへ』(PHP研究所)

これ以外にも『臨死体験』上・下(立花隆著、文藝春秋)、『フローの文明、ストックの文明』(矢野暢著、PHP出版)を検討した。

⑧皆川鞆一=『死ぬ瞬間~死にゆく人々との対話』(ON DEATH AND DYING)(E・キューブラー・ロス著)(川口正吉訳、読売新聞社)

⑨山本恵子=『寄りかからず』『自分の感受性くらい』『清談について』(詩人、茨木のり子の詩集から3編紹介)

(皆川記)

(3) 第51回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時： 2018年9月25日(火) 18:30~20:30
- 2) 場 所： 早稲田大学戸山キャンパス 39号館4階第4会議室
- 3) 報告者： 柄本三代子(東京国際大学)
- 4) テーマ： 「放射能汚染の食品安全において後景化するつながり
——『二本松で有機農業が続くこと』を实践する人びと」

柄本さんは、「食の安全性」に関して、農業生産者、政府、科学者、消費者などさまざまな立場の違いから対立が生じる問題を、社会学的「リスクコミュニケーション」という視点に立って長年にわたって問い続けてきた。今回は、報告者が、福島県二本松市で、人とのつながりの中での信頼を基盤として食の安全基準を相互に判断しつつ「有機農業」を続けているグループの活動を事例として取り上げ、東日本大震災の原発事故を契機に生じた食品への放射能汚染に対する安全性への政府及び科学者の食品安全基準の設定と食品安全評価の動きや、消費者運動団体の同様の動きと対比させながら、このグループの活動を「二本松で有機農業が続くこと」を实践する人びとの活動と表現する。そして、主として市場原理で展開する現代の食をめぐるガバナンスを背景として、それらの人びとの活動の意味を探ろうとしている。

しかしながら、柄本さんはそれらの人びとの活動に肩入れするのではなく、それらの人びとが現代社会の食をめぐるガバナンスのなかで、徐々に主だった人の他地域への移住や人びとの繋がりと相互信頼関係のもつ意味が後景に退き次第に見失われる傾向をもつことを指摘しながらも、彼らが汚染された土地の除染に努力しつつ風評被害に抗い独自の食の安全についての判断を再構築しつつ「有機農業」を続け、生産者と消費者の間で関係を保っていくことのなかに、「食の安全性に対する科学的理解」とは異なる「食の安全性への理解」が見いだされるとして、その存在に目を向ける。さらに、現代の食をめぐるガバナンスの中で「食の科学的リスク判断」と、科学的リスク判断の外部に位置するこのような「食の安全に対する科学的とはいえない理解」を総合的に扱えるような「社会科学的リスク判断」の可能性を探ることの必要性を訴えようとしている。

報告者のこれまでの研究の連続性のなかで話を理解する必要があり、初めて聞く人にはやや理解しにくいという印象も受けたが、目指している方向についてのイメージはある程度共有できるように感じた。参加者からは、現代の食のガバナンスの中で、とくに市場原理で展開する動きのメカニズムと、紹介された有機農業の実践者と消費者相互の繋がりと動きに見られる社会的論理をどのようにとらえるのか、また両者をどのように関係づけたらよいのかについてももう少し議論を深める必要があるのではないか、といった指摘もなされた。(長田記)

(4) 第58回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時： 2018年9月27日(木) 15:00~17:00
- 2) 場 所： 早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) 報告者： 濱口座長のレクチャー
- 4) テーマ： なぜ、「人老い易く、シニアに成り難し」なのか

濱口座長は、「シニアに成り難し」を解くカギは「サードプレイス」の効用のすゝめであると述べられた。社会はいま「私化」しており、自由と規律の兼ね合いが「サードプレイス」を形成維持して行く。自由闊達な個人の自由度が試される時代に入って来たこと。「サードプレイス」には核になる人の存在が必要であり、それらの人々の個性が「サードプレイス」の有り様を決めて行くこと。そして、昔も今も人は「生活と生命の乖離」(生きることという事実と家族制度、保険制度、教育制度などの生活の仕組みがマッチしていないか、マッチしにくくなる)をその時代風感じていたこと。そして「生活と生命の乖離」は「サードプレイス」に結び付いて行くこと。またシニアはリスクが大きくなって行き、そのリスクを解消するために、社会的仕組みを考えることが大切であると説かれました。(島村記)

(5) 第112回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年10月3日(水) 18:00~20:00
- 2) 講 師：西下彰俊(東京経済大学現代法学部教授)
- 3) テーマ：「岐路に立つスウェーデンの高齢者ケア」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
豊島区東池袋1-44-3 池袋I SPタマビル 8階

スウェーデンは代表的な福祉国家である。その福祉国家が岐路に立たされているという話を3枚の資料に基づいて、お話しいただいた。

西下氏は、1998年夏から1年間、スウェーデンのリンショーピング大学テマ研究所に客員研究員として留学し、以後、毎年1回はスウェーデンで調査研究を続け、その成果は2冊の本と翻訳(共訳)にまとめられている。

スウェーデンの高齢者ケアの光と影を両面からお話しされたが、特に影の話が興味深かった。まず第1に、要介護の認定が一人の専門職によって行われ、全国共通の認定手続きがないことに驚かされた。第2に、介護の付いた特別住宅(日本の認知症グループホームの原型)に、希望してもなかなか入居できない背景が説明された。コストが大きいことがその理由である。在宅ケアで可能な限り生活することがまず前提としてありその後重度化して初めて介護施設にはいるという順序性が明確になっているからである。介護施設は、民間委託の施設だけでなくコミュン(市)が運営していても、人件費が抑制されているので、介護職員がいないというケースもあるようだ。スウェーデンでは、国が介護職員の配置基準を設定していないため、そうした問題が発生するとのことである。夏には職員が長期休暇をとるため、介護施設のヘルパーもアルバイトが半分仕事をしている。西下氏は留学中、色々な介護施設を回る中で、アルバイトの多さに気が付いたようだ。

オランダやデンマークでは、福祉国家としての機能が弱体化しており、介護はフォーマルケアではなくインフォーマルケアに軸足が移っている。そうした国では、地方自治体が要支援、要介護の高齢者のニーズに合わせて、ボランティアやNPOなどの地域資源につなげることでコストを抑制している。西下氏によると「そうした国に比べれば、スウェーデンは岐路に立つ状況とはいえ福祉国家としてフォーマルケアを実践できているので、安心できる国です」とのことである。

(袖井孝子 記)

(6)「ガバナンス研究会」の特別企画実施報告

江戸中期の浅間山「天明の大噴火」の被災地視察ツアーは8~9月、計2回実施し、ナルク川崎代表の花崎会員夫妻など計11人が参加、群馬県の休暇村嬬恋鹿沢に2泊し、被災者が避難して助かった鎌原観音堂や郷土資料館、鬼押し出し園を視察、防災・減災の重要性を再確認したあと、川村主宰の山荘で交流会を楽しんだ。好評につき、10月、さらに来年も企画する。

詳しくは同研究会の川村会員へ。

4. 第5回シンポジウム「あれから8年~わたしたちはフクシマを忘れない~ 二点居住という生活のかたち」開催のお知らせ

- (1) 日 時：2018年12月8日(土) 14:00~17:00
- (2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 36号館 3階 382AV教室
- (3) 司会・進行：長田攻一(シニア社会学会「災害と地域社会」研究会座長)
川副早央里(東洋大学社会学部社会学科助教)
松村治(早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員)
- (4) 映画上映：板倉真琴監督「ひとと原発」(第5回シニア社会学会シンポジウムVer)
- (5) 話題提供者：

大坊雅一(東雲住宅避難者自治会「東雲の会」事務局長、浪江町出身、東京都在住)

二俣公子(東雲住宅避難者自治会「東雲の会」理事、富岡町出身、東京都在住)

田中美奈子(いわき市在住富岡町民自治会「すみれ会」会長、富岡町出身、いわき市在住)

(6) コメンテーター

伊藤まり（浪江出身、神奈川県在住）

浦野正樹（早稲田大学教授）

(7) 参加費：無料

(8) 申し込み方法：お申込みは、添付のチラシの裏面をご参照ください。

※ 共 催：早稲田大学総合人文科学研究センター <現代社会の危機と共生社会創出に向けた研究>部門

※ 後 援：早稲田大学地域社会と危機管理研究所

※ 詳細については、添付のチラシをご覧ください。

5. 当学会後援国際シンポジウムのお知らせ

(1) 日 時：2018年11月16日（金） 13：30～17：00

(2) 会 場：MY PLAZAホール（東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル4階）

(3) テーマ：高齢化先進国の日本！ みんなが主役となって創る地域社会とは
～海外と日本の最新トレンドから高齢者の活躍を考える～

(4) 共 催：国際長寿センター・ダイヤ財団

(5) 参加費：無料

※ 詳細については、添付のチラシをご参照の上、参加ご希望の方はお申し込みください。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）

10月26日（金）は事務局臨時休業です

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX：(03) 5778-4728

eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>